

キリストの異邦人への降誕
聖書箇所:使徒言行録10章34~48節(新改訳)

34 Then Peter began to speak: “I now realize how true it is that God does not show favoritism ³⁵ but accepts from every nation the one who fears him and does what is right. ³⁶ You know the message God sent to the people of Israel, announcing the good news of peace through Jesus Christ, who is Lord of all. ³⁷ You know what has happened throughout the province of Judea, beginning in Galilee after the baptism that John preached— ³⁸ how God anointed Jesus of Nazareth with the Holy Spirit and power, and how he went around doing good and healing all who were under the power of the devil, because God was with him.

39 “We are witnesses of everything he did in the country of the Jews and in Jerusalem. They killed him by hanging him on a cross, ⁴⁰ but God raised him from the dead on the third day and caused him to be seen. ⁴¹ He was not seen by all the people, but by witnesses whom God had already chosen—by us who ate and drank with him after he rose from the dead. ⁴² He commanded us to preach to the people and to testify that he is the one whom God appointed as judge of the living and the dead. ⁴³ All the prophets testify about him that everyone who believes in him receives forgiveness of sins through his name.”

44 While Peter was still speaking these words, the Holy Spirit came on all who heard the message. ⁴⁵ The circumcised believers who had come with Peter were astonished that the gift of the Holy Spirit had been poured out even on Gentiles. ⁴⁶ For they heard them speaking in tongues and praising God.

Then Peter said, ⁴⁷ “Surely no one can stand in the way of their being baptized with water. They have received the Holy Spirit just as we have.” ⁴⁸ So he ordered that they be baptized in the name of Jesus Christ. Then they asked Peter to stay with them for a few days.

34 そこでペテロは、口を開いてこう言った。「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、35 どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行う人なら、神に受け入れられるのです。36 神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にみことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすべての人の主です。37 あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事がらを、よくご存じです。38 それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。39 私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムとで行われたすべてのことの証人です。人々はこの方を木にかけて殺しました。40 しかし、神はこのイエスを三日目によみがえらせ、現れさせてくださいました。41 しかし、それはすべての人々にではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちにです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられて後、ごいっしょに食事をしました。42 イエスは私たちに命じて、このイエスこそ生きている者と死んだ者とのさばき主として、神によって定められた方であることを人々に宣べ伝え、そのあかしをするように、言われたのです。43 イエスについては、預言者たちもみな、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられる、とあかししています。」

44 ペテロがなおもこられのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。45 割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。46 彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。

そこでペテロはこう言った。47「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマをうけさせないようにすることができましょうか。48 そして、イエス・キリストの御名によってバプテスマを受けるように彼らに命じた。彼らは、ペテロに数日間滞在するように願った。

Introduction

It seems that up to this point in the biblical record, the **good news** about our Lord Jesus Christ had expanded considerably. According to Acts 9:31, it had spread already throughout Judea, Samaria and Galilee. However, the religious and cultural divide remained a challenge. The gospel had circulated only among the Jews and the half Jewish Samaritans.

この聖書箇所が書かれたその当時は、私たちの主イエス・キリストについての良い知らせは、かなり広がっていたようです。使徒言行録9章31節によると、良い知らせはすでに、ユダヤ、サマリア、ガリラヤに広がっていました。しかし、宗教的、文化的な隔たりは依然として課題として残っており、福音は、ユダヤ人と半分ユダヤ人であるサマリヤ人の間にしか伝わっていませんでした。

The very first recorded Gentile (non-Jew) conversions include that of the Ethiopian eunuch (Acts 8:26~39) and that of Cornelius (Acts 10). Acts 10:1~2 tells us that Cornelius was from Caesarea and “...a centurion in what was known as the Italian Regiment.”² *He and all his family were devout and God-fearing; he gave generously to those in need and prayed to God regularly.* [Note: A centurion is a Roman captain in-charge of about 100 soldiers].

最初に改宗したとされる、非ユダヤ人である異邦人は、使徒行伝8章26~39節に登場するエチオピア人の宦官(かんがん)と、使徒行伝10章に登場するコルネリオであったと記録されています。コルネリオはカイザリヤ出身で、使徒行伝10章1~2節には、コルネリオは「イタリヤ隊という部隊の百人隊長であった。彼は敬虔な人で、全家族とともに神を恐れかしこみ、ユダヤの人々に多くの施しをなし、いつも神に祈りをしていた」と、書かれています。

[注: 百人隊長とは、約100人の兵士を指揮するローマ帝国の隊長のこと]

It's noteworthy that miraculous events accompanied Cornelius's conversion. He saw an angel in a vision who instructed him to send men and bring back with them Simon Peter. Similarly, God's Spirit instructed Peter to go with the men that Cornelius sent meet him.

コルネリオの回心には、奇跡的な出来事が伴っていたことに注目されます。コルネリオは、幻の中で天使を見ました。そして、人を遣わしてシモン・ペテロを連れてくるようにと指示しました。また神の霊も同様に、ペテロに、コルネリオが送った人たちと一緒に行くように指示しています。そのことが、使徒言行録10章に書かれています。

Acts 10:19~20 - ¹⁹ While Peter was still thinking about the vision, the Spirit said to him, “Simon, three men are looking for you. ²⁰ So get up and go downstairs. Do not hesitate to go with them, for I have sent them.”

使徒言行録10章19-20節—19 ペテロが幻について思いを巡らしているとき、御霊が彼にこう言われた。「見なさい。三人の人があなたをたずねて来ています。20 さあ、下に降りて行って、ためらわずに、彼らと一緒に行きなさい。彼らを遣わしたのはわたしです。」

使徒言行録10章34~48節からは、次のようなことを洞察することが出来ます。

まず、第一に気づくことは、『どの国の人であっても、神に受け入れられる』と言うことです。

I. Christ's advent among the Gentiles came through His messenger – verses 34~35

I. どの国の人であっても、神に受け入れられる-34-35節

³⁴ **Then Peter began to speak**: “I now realize how true it is that God does not show favoritism ³⁵ but accepts from every nation the one who fears him and does what is right.

34 そこでペテロは、口を開いてこう言った。「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、35 どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行う人なら、神に受け入れられるのです。

Though Paul is considered to be the apostle to the Gentiles, it was Peter who got the first “crack” at them.

パウロは異邦人への使徒とされており、最初に異邦人への話の「口火」を切ったのはペテロでした。そのことが、ガラテヤ人への手紙2章と、ローマ人への手紙11章に、次のように書かれています。

Galatians 2:8 - For God, who was at work in Peter as an apostle to the circumcised, was also at work in **me [Paul] as an apostle to the Gentiles.**

ガラテヤ人への手紙2章8節—8 ペテロのみわざをなして、割礼を受けた者への使徒となさった方が、私にもみわざをなして、異邦人への使徒としてくださったのです。

Romans 11:13 - I am talking to you Gentiles. Inasmuch as **I am the apostle to the Gentiles,** I take pride in my ministry.

ローマ人への手紙11章13節—13 そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。

Peter reached out in love to the Gentiles, in obedience to what God told him to do.

ペテロは、神から命じられたことに従い、異邦人に愛の手を差し伸べたのでした。

APPLICATION: Even at the present time, God is pleased to use Christ-followers as messengers to bring out the gospel message. After all, as these rhetorical questions ask...

今現在も、神は、キリスト教信者をメッセンジャーとして用い、私たちが福音のメッセージを伝えることを喜ばれているのです。そして、ローマ人への手紙では、次のような質問が問いかけられています。

Romans 10:14~15a - ¹⁴ *How, then, can they call on the one they have not believed in? And how can they believe in the one of whom they have not heard? And how can they hear without someone preaching to them?* ¹⁵ *And how can anyone preach unless they are sent?**

ローマ人への手紙 10章14-15節—14 しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。15 遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」

The short answer to these questions of course is: “They can’t.” The necessity of believing to be saved is preceded by hearing the preaching of the gospel from someone sent by God.

Someone who understands that “God does not show favoritism but accepts from every nation the one who fears him and does what is right” (vv.34~35)

もちろん、これらの質問に対する答えは簡単です。信じなければ呼び求められないし、聞かなければ信じられないし、遣わされなければ宣べ伝えることはできないので、答えは『できない』です。救われるために信じるには、神によって遣わされた人から福音の教えを聞くことが先決です。34~35節には、『神はかたよったことをなさらず、どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行う人なら、神に受け入れられるのです。』と書かれています。

そして、次に、使徒言行録10章から気づくことは、『キリストの降臨についての、異邦人へのメッセージはキリストを中心としたものであった』と言うことです。

II. Christ's advent among the Gentiles came as a Christo-centric message – verses 36~43

Ⅱ.キリストの降臨についての、異邦人へのメッセージはキリストを中心としたものであった- 36節~43節

Peter then proceeds to proclaim Jesus Christ. His message to the Gentiles is essentially the same as his message to the Jews. He convincingly presented the person and work of Jesus Christ. He emphasized Christ's resurrection and man's responsibility before God in view of these things. Peter's sermon was a concise explanation of the person and work of our Lord Jesus Christ:

そしてペテロは、イエス・キリストについて宣べ伝えていきます。異邦人に対する彼のメッセージは、ユダヤ人に対するメッセージと本質的に同じものでした。ペテロは、イエス・キリストの人となりとイエスの働きを、説得力を持って伝えました。そして、キリストの復活と、その復活を踏まえた上で、私たち人間が神に対してどのような責任を持つのかを教えたのでした。ペテロの説教は、私たちの主イエス・キリストの、SS人となりと業を簡潔に説明した次のようなものでした。

- Jesus is the peace-maker between God and man (v.36).
 - Jesus is Lord of all (v.36).
 - Jesus was anointed with the Holy Spirit and with power (v.38).
 - Jesus went around doing good and healing all who were under the power of the devil (v.38).
 - Jesus did this with the power of God, for God was with Him (v.38).
 - Jesus did these things in the presence of eyewitnesses (v.39).
 - Jesus was crucified (v.39).
 - Jesus was raised by God from the dead and was seen by many witnesses (v.40).
 - Jesus showed proofs of His resurrection by eating and drinking with His disciples (v.41)
 - Jesus commanded them to preach the message of who He is and what He did (v.42).
 - Jesus is appointed by God to be Judge of the living and the dead (v.42).
 - Jesus is the one foretold by the prophets (v.43).
 - Jesus forgives the sins of those believe and call on His Name (v.43)
-
- イエス様は、神様と人間との間に平和を作る方(36節)
 - イエス様は、すべての人の主である(36節)
 - イエス様は、神が聖霊と力とをそそいだ方(38節)
 - イエス様は、善い業をして回り、悪魔に制せられているすべての人を癒された(38節)
 - イエス様は、神の力をもってこれを行った
 - イエス様は、証人たちの前でこれらのことをした(39節)
 - イエス様は、十字架につけられた(39節)

- イエス様は、神によって死者の中からよみがえられ、多くの証人がそれを見た(40節)
- イエス様は、弟子たちと食べたり飲んだりして、復活の証拠を示された(41節)
- イエス様は、弟子たちに、イエス様が誰で、何をされたかを宣べ伝えるように命じた(42節)
- イエス様は、生きている者と死んだ者を裁く者として、神様から託された(42節)
- イエス様は、預言者たちによって予言された方(43節)
- イエス様は、信じて御名を呼ぶ者の罪を赦す(43節)

I think this is the same principle that the apostle Paul lived by when he wrote about his own experience as a minister of the gospel.

これは、使徒パウロが、自らが福音宣教者として生きた時に従った原則と同じ原則だと思います。使徒パウロは、福音の宣教者として、コリント人への手紙 第一 2章1～2節に、次のように書いています。

1 Corinthians 2:1~2 - And so it was with me, brothers and sisters. When I came to you, I did not come with eloquence or human wisdom as I proclaimed to you the testimony about God. ² For I resolved to know nothing while I was with you except Jesus Christ and him crucified.

コリント人への手紙 第一 2章1～2節—1 さて兄弟たち。私があなたがたのところへ行つたとき、私は、すぐれたことば、すぐれた知恵を用いて、神のあかしを宣べ伝えることはしませんでした。2 なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかは、何も知らないことに決心したからです。

Remember: If one calls attention to himself and to his own competence, he'll find it difficult to effectively call attention to Jesus and His glorious sufficiency.

覚えておいてください。もし人が、自分自身に注目したり、自分の能力に注目したりすると、イエス様に注目することは難しくなりますし、イエス様の栄光ある充足感に目を向けることは難しいでしょう。

最後に、使徒言行録10章から気づくことは、『キリストの異邦人への降臨は、聖霊の現れと共に来た』と言うことです。

III. Christ's advent among the Gentiles came with the Holy Spirit's *manifestation* – verse 44~48

III. キリストの異邦人への降臨は、聖霊の顕現と共に来た - 44~48節

⁴⁴ While Peter was still speaking these words, the Holy Spirit came on all who heard the message.⁴⁵ The circumcised believers who had come with Peter were astonished that the gift of the Holy Spirit had been poured out even on Gentiles. ⁴⁶ For they heard them speaking in tongues and praising God.

44 ペテロがなおもこられのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。 45 割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。46 彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。

When the Holy Spirit came on them, it was accompanied by the manifestation of spiritual gifts. We may describe it in two senses:

聖霊が彼らの上にやってきた時、それは霊的な賜物を伴うものでした。そのことは、次の二つのことを意味します。

- First, in the sense that *the Holy Spirit indwells* and abides in the believer; and,
 - Second, in the sense that *the Holy Spirit empowers* the believer with gifts and special abilities
-
- 第一に、聖霊が信者の中に宿り、留まるということの意味する。
 - 第二に、聖霊は信者に賜物と特別な能力を与えてくれることを意味する。

It's amazing that God exercised His sovereign prerogative and interrupted Peter's sermon. The Holy Spirit was doing the inner work in the hearts of those who are listening, and Peter went with the flow. He stopped and called for their baptism.

神がその主権を行使して、ペテロの説教を中断したのは驚くべきことでした。説教を聞いている人の心の中に、聖霊が内なる働きをしているのがわかったので、ペテロはその流れに乗ったのです。ですから、ペテロは説教をするのをやめて、人々にバプテスマを受けるように呼びかけたのでした。

Acts 10:47~48a - ⁴⁷ "Surely no one can stand in the way of their being baptized with water. They have received the Holy Spirit just as we have." ⁴⁸ So he ordered that they be baptized in the name of Jesus Christ.

使徒の働き10章47-48節—47 この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマをうけさせないようにすることができますか。48 そして、イエス・キリストの御名によってバプテスマを受けるように彼らに命じた。彼らは、ペテロに数日間滞在するように願った。

Conclusion/Application

Christ's advent among the Gentiles formally kicked off with Peter's visit to Cornelius's house. Peter's Christ-centered message gave impetus to the Gentiles' response with believing faith in their hearts. The Holy Spirit affirmed it by His powerful manifestation of His presence among them.

異邦人の前にキリストが現れると言う『異邦人への降臨』は、ペテロがコルネリオの家を訪問した時が、正式な始まりでした。キリストを中心にしたペテロのメッセージは、異邦人たちの心に信仰を呼び起こし、異邦人たちはそれに応えました。そして、キリストが異邦人たちの前に力強く臨在を示されたのを、聖霊は確認したのでした。

Takeaway: Even religious people like Cornelius need to hear and believe the good news about Jesus in order to be saved. The good news is for all people

困みに、コルネリオのような立派な宗教家でも、救われるためにはイエス様の良い知らせを聞き、信じる必要があったのです。このように、良い知らせはすべての人のためにあるのです。

ILLUSTRATION: The young salesman was disappointed about losing a big sale, and as he talked with his sales manager he lamented, "I guess it just proves you can lead a horse to water but you can't make him drink." The manager replied, "Son, take my advice: your job is not to make him drink. Your job is to make him thirsty."

ここで、あるセールスマンのお話をしたいと思います。ある若いセールスマンが、ある日、大きな売り上げを逃してしまい、がっかりして営業部長と話しながら、「馬を水に導くことはできても、水を飲ませることはできないということですね。」と嘆いていました。すると、営業部長は次のように言いました。「君に忠告しておこう。君の仕事は馬に水を飲ませることではない、馬を渴かせることだ。すなわち、君の仕事は馬に水を飲ませることではなく、馬が喉が渇くように仕向けると言うことだよ。」

So it is with gospel proclamation. Our message should be so filled with Christ that they create a thirst for the Gospel. Didn't our Savior say in John 12:32: "*And I, when I am lifted up from the earth, will draw all people to myself*"?

この話のように、福音宣教もそうなのです。私たちの伝道のメッセージは、キリストに満たされたものであり、福音への渇きを、人々に生み出すものであるべきです。皆さん、私たちの救い主は、ヨハネによる福音書12章32節で次のように言っています。「わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます。」まさに、その通りではないでしょうか。